

「スペース・イオ」とは「In・Out」が自由にできる空間を意味します。また、「IO」はイタリア語で「私」のことで、これらの意味を含んで名付けられました。

9・10月行事予定

1か月ぶりのスペース・イオでの学習が始まりました。後期に向けて、入所の目的や学習の仕方、利用の約束などを再確認し、新たな気持ちでスタートしましょう。

9月15日(金)	校外学習(加賀谷農園・天王グリーンランド)
10月2日(月)	後期入所式
10月27日(金)・28(土)	明德祭(スペース・イオの作品を展示します)

後期保護者会費等の納入をお願いします

後期も継続して利用する場合は、**9月29日**までスペース・イオに持参していただくか、銀行口座振り込み(手数料保護者負担、子どもさんの名前)で納めてください。

保護者会費 (10月～2月分) 2,500円
ITサーバー利用料 (10月～3月分) 6,480円
(10月～2月分) 5,400円

- * 2月末でIT学習終了を希望する方は、納入前にご連絡ください。
- * 入所の継続を希望しない場合は、**9月14日**まで担当にご連絡ください。

後期入所式のご案内

10月2日(月)

午後1時30分から午後2時30分
明德館ビル 2階 講堂

参加者: 児童生徒 保護者

- * 前期入所式に参加されていない方は、ご都合をつけてご参加ください。後日、出欠確認の用紙を配付します。

秋田大学大学院実習生から

6月27日から29日までいらした実習生さんからのメッセージをご紹介します。

「あっという間に3日間が過ぎてしまい、もっとイオにいたいなと寂しい気持ちが湧いてきています。この3日間、皆さんの勉強への姿勢や、何より皆さんの優しさに驚かされ励まされました。本当にありがとうございました。イオで過ごす時間はこれからの皆さんにとっての大きなエネルギーになると思います。体を一番大事にしつつ、やりたいことを楽しめるように頑張ってください。応援しています。私も頑張ります。」

相談タイム(9月・10月)のお知らせ

【担当】成田美也子先生

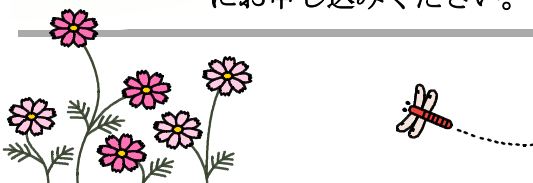
【対象】スペース・イオ児童生徒・保護者

【場所】スペース・イオ相談室

【期日】9月7日、9月14日、9月21日、
9月28日、10月5日、10月12日、
10月19日、10月26日

【申込み方法】児童生徒は学習計画書に記入してください。

保護者の方は電話でスペース・イオにお申し込みください。



保護者懇談会

7月15日（土）の保護者懇談会のグループ懇談で話題になったことについて、講師の加賀谷先生からご助言をいただきました。

1 サポーターを増やそう・利用しよう！

「子どもが週末に親戚の家でバーベキューなどで楽しんでいる。」という紹介がありました。家族の絆を大切にしながら、いろいろな人とつながることは、社会性を育むことでもあり、新しい自分を発見できる機会です。また、非日常的な体験を通して、自己を見つめ直す機会にもなります。

2 子どものできることや得意なことを伸ばそう！

「子どもが作った料理をフェイスブックで紹介している。」というお話がありました。見た人から、「すごい！」という賞賛のメッセージが寄せられ、それが子どもの自信になっていると思います。子どもには「①ほめられたい②認められたい③愛されたい④役に立ちたい」という「四匹のたい」が住んでいます。①～③が満たされてくると④が生まれてきます。子どもの弱点に注目するのではなく、できていることを認め、「四匹のたい」を育てましょう。

3 子どもの興味あることを関わるきっかけにしよう！

「思春期になると父親と子どもの距離感が難しい。」ということが話題になっていました。子どもが話したくなるような興味あることを話題にしたり、子どもの好きなことを一緒にやったりすることがお勧めです。また、返事がなくても「おはよう」などと声を掛けたり、アイコンタクトでメッセージを送ったりすることも大切です。父親と母親の役割を分担しながら、子どものやりたいことをつかず離れずの距離で応援しましょう。

4 アイメッセージで伝えよう！

「子どもが帰宅するまで時間がかかったことにイライラした。」という声が聞かれました。「でも、子どもなりに頑張っているかもしれないので、イライラしたことを反省している。」と話していました。「あなたは遅く帰ってきたからダメ！」と叱るより、「私は、事件に巻き込まれたのではないかと思った。」と、アイ（私）メッセージで心配していたことを伝えたほうが、親の気持ちが伝わるのではないかと思います。

5 学習面のつまずきの背景を探り、わかる・できるをスタートにしよう！

「うちの子は勉強が苦手なノートに書くことも辛いようだ。」という悩みがありました。例えば、書くことにつまずきには、バランスよく書けない、書き写すことが遅い、鉛筆の持ち方がぎこちないなど、様々な背景があります。具体的な支援としては、書く量を調節する、ワークシートを用意して書く量を減らす、子どもの得意な力を利用して覚える（例：「休」→人が木で休む〈言葉で意味付ける〉 人+木〈視覚的に示して価値付ける〉など、子どもに合った配慮（合理的配慮）を実施する学校が増えてきました。また、学習に自信がもてるように、子どもの水準に合った課題を用意して、「わかる」からやる、やれば「できる」、「できる」から意欲的に取り組むという成功体験を増やしてほしいと思います。

6 「普通」は最初からあるものではなく、一緒につくりあげるもの！

「普通になってほしい、子どもに普通を求めてはいけないの？」ということが話題になったグループがありました。「普通」の基準とは？ あるいは「幸せ」の基準とは何か、ずっと考えていました。子どもたちの目標は「自立」だと思います。自立とは、全てのことを自分一人でやることではなく、少ない支援で自分の力を最大限発揮することだと思います。自立に向かって目指す道は、途中、曲がりくねった道、でこぼこ道などいろいろあります。遠回りが最良の近道になることもあります。子どもを責めず、自分を責めず、少し気持ちに余裕をもち、子どもとの時間を大事にし、時には本音でぶつかり合いながら、「子どもが私は愛されている」を実感できるようにしてほしいと思います。それぞれの「普通のカタチ」をつくってほしいと思います。

・悩みを「吐く」懇談会は大切だと思いました。外に吐き出すことで「+」が増え、「-」が減ります。そして、やがて「吐く」は「吐く」うに変わります。貴重な機会を与えてくださったことに感謝するとともに、親子の夢が叶うことをお祈りしています。 総合教育センター 加賀谷 勝